

令和3年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」受賞候補者

総理表彰
候補者

VONS (沖縄県中頭郡西原町)	…1頁
特定非営利活動法人Kacotam (北海道札幌市)	…1頁
合計2件	

大臣表彰
候補者

越前市武生第三中学校生徒会 (福井県越前市)	…2頁
川崎ワカモノ未来PROJECT歴代インターン (神奈川県川崎市)	…2頁
CoMedつくば (茨城県つくば市)	…3頁
児童問題研究会ひばり (香川県木田郡三木町)	…3頁
長野県上田千曲高等学校ボランティア班 (長野県上田市)	…4頁
八上真也 (大阪府守口市)	…4頁
Lovers～難病患者・家族を支える会～ (熊本県熊本市)	…5頁
合計7件	

令和3年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」受賞候補者概要

内閣総理大臣表彰候補者（2件）

1

ヴォンス
VONS
(沖縄県中頭郡西原町)

生活困窮世帯等向けの食糧支援（フードドライブ）に取り組む学生団体です。

令和2年4月に、沖縄県内でコロナ禍に伴う最初の緊急事態宣言が発令されたことを機にチームを結成し、食糧寄付を集めて福祉団体等へ届ける「MUGUMグフードプロジェクト」を開始しました。

本取組みは、関係者の協力を得ながら、民間団体、行政等多様な主体との協働により、那覇市だけでなく、名護市、南風原町、西原町、北中城村、沖縄市でも展開される等、県内各地で広域的に、学生が主体となった社会課題の解決や社会参画のムーブメントを起こしています。

また、活動にあたっては、地域で孤立し、福祉の制度的狭間の中で、支援が行き届かない生活困窮世帯等に対し、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を踏まえて支援を行っています。

・VONS=Volunteers by Okinawa Next generation and Students



フードプロジェクトの様子

2

カコタム
特定非営利活動法人Kacotam
(北海道札幌市)

「全ての子供が学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会」を目指し、「楽しい学びの場を全ての子供・若者へ」を合言葉にして、平成24年に活動を始めた団体です。

法人の名称の由来は、学習支援を通じて、自ら考え行動し、そして楽しむことを大切にしたいという思いから、この頭文字を合わせ名付けられました。（考えの力、行動しのこ、楽しむのタム）

当初、任意団体として設立しましたが、平成26年にNPO法人格を取得し、令和元年には、札幌市から「認定NPO法人」の認定を受けるなど団体として社会的な信頼を得るとともに、活動地域についても、札幌市に加え、平成28年にカコタム苫小牧支部、令和元年に江別支部、令和3年には東京支部で活動を開始するなど、道外にも活動拠点を広げています。



訪問型学習支援学
ラボの様子



拠点型学習支援ス
タサボの様子



中高生のオープンス
ペースの様子

令和3年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」受賞候補者

内閣府特命担当大臣表彰候補者（7件）

1

たけふ
越前市武生第三中学校生徒会
（福井県越前市）

地元越前市で毎秋開催されている「菊花マラソン」へのボランティア活動、地域美化活動である「三世代交流ボランティア」、校内での「ちょボラ」（ちょっとしたボランティア）活動など、様々なボランティア活動に学校全体で取り組んでいる中学生の団体です。

特に「菊花マラソン」では、視覚障害のあるブラインドランナーの伴走ボランティアに平成15年から継続して取り組んでいます。本ボランティアは、生徒たち自身の障害者理解や福祉教育だけではなく、次世代へのボランティア意識の継承や、地域全体のパラスポーツへの理解促進や普及にも繋がっており、卒業生が令和3年に福井県内で聖火ランナーのボランティアを務めるという形として結実しました。

また、平成20年代初頭から始まった「ちょボラ」活動は、昼休み時間などを利用して清掃など簡単なボランティアを行う活動であり、現在では全校生徒が参加しています。



「菊花マラソン」での伴走ボランティアの様子



「ちょボラ」の様子



「三世代交流」でのピオトープ整備の様子

2

川崎ワカモノ未来PROJECT
歴代インターン
（神奈川県川崎市）

「川崎ワカモノ未来PROJECT歴代インターン」とは、「川崎ワカモノ未来PROJECT」という、川崎市をフィールドに、自分の身の回りや地域、社会の未来づくりにチャレンジしたい高校生を対象としたプロジェクトにおいて、川崎の未来を担う高校生の取組を応援するため、参加者だった学生たちが支える側となり、企画や運営を主体的に担う団体です。

「歴代インターン」たちは、立ち上げの初年度から、運営を担い、この6年間で8人の学生たち（当時）が、各年バトンを繋いできたことで、6期目をむかえることができました。各種イベントの企画設計から、毎年20人ほど集まる高校生参加者コミュニティ運営まで、幅広く担っています。また、歴代OBOGが高校生のプロジェクトメンターになる仕掛け等、あらゆる形で卒業生にも関わりしろをつくりながら取り組んできたことにより、川崎市において、若者主体団体立ち上げなど若者の意見表明や社会参画を促進する好循環をも生み出しています。



メンバーの皆さん



高校への出前講座の様子



プロジェクトのチラシ

3

CoMedつくば (茨城県つくば市)

CoMedつくばは、茨城県内で心肺蘇生法講習会、熱中症予防講習会など健康教育活動に取り組んでいる筑波大学の学生団体です。

講習会は茨城県内の小中学校及び地域で開催される交流イベント内や出張授業として実施しています。心肺蘇生法講習会ではAEDの正しい使い方を学んでもらい、訓練用のマネキンを用いてロールプレイを参加者自身で行うことで心肺蘇生の一連の流れを学んでもらいます。熱中症講習会では、熱中症の症状、対処法の講義のあと、熱中症予防のために自分たちに何ができるかをグループワークで考えてもらいます。その他、地域のニーズに合わせ、がん、喫煙等のテーマの講習会も実施しています。ロールプレイやグループワークを取り入れた参加者主体型の講習会を年齢の近い医学生が行うことにより、健康に関する正しい知識を実践し身近に感じてもらうことで、さらには地域全体への普及、健康増進につながることを目指しています。

・ CoMed=Community Medicine



心肺蘇生法講習会
の様子



喫煙防止教育の様子



がん教育で作成した
ポスター

4

児童問題研究会ひばり (香川県木田郡三木町)

児童問題研究会ひばりは、昭和58年の設立以来、発達に困難を抱える子供や長期入院を必要とする慢性小児疾患を持つ子供たちやその家族と交流し、支援するとともに、その経験を将来の医療者として役立てることを目的とした香川大学医学部のボランティアサークルです。

香川県内の医療施設にて、障害を持つ子供との交流活動を行っています。子供たちにとって、年齢の近い大学生は親しみやすく、良い関係を構築しています。慢性疾患などで長期入院・治療中の子供たちやその兄弟・姉妹と一緒に遊んだり勉強を教えたりして、子供たちにコミュニケーション機会を提供しています。学習の遅れを軽減し、加えて、苦痛のある入院・治療生活に、楽しい時間を提供できるよう活動しています。そして、将来医療者・援助者となる大学生自身が、この活動から多くの学びを得ています。



「小児ボランティア
アー遠隔での水族
館見学」の様子



「小児ボランティア
アーハロウィンパー
ティー」の様子



勧誘ポスター

5

うえだちくま
長野県上田千曲高等学校ボランティア班
(長野県上田市)

社会福祉分野で活躍する人材を育成する、県下唯一の「生活福祉科」の生徒が中心となり、上田市で様々な分野においてボランティア活動を行っています。

平成9年、上田千曲高校生徒会がカンボジアへ赴き、現地で活動していた東大寺和尚の指導を受け井戸を一基設置しました。生活福祉科が開設されたこともあり、平成13年にボランティア班が発足し、井戸設置活動はボランティア班に引き継がれ、最初の訪問から約25年にわたりカンボジア支援や文化交流を続けてきました。平成9年から31年まで井戸を毎年1基、計24基を設立した。ボランティア班発足の平成13年からはカンボジア支援だけでなく、地域福祉活動として社会福祉施設での交流やイベントの手伝い、高校周辺のごみ拾いなど、多岐にわたり地域へ貢献する活動を行っています。平成30年からは上田千曲高校敷地内にある戦争遺跡を小学生に案内し、また、小学校で「語り部」として戦争の史実を伝えるなど、平和学習にも取り組んでいます。



ボランティア班の皆さん

カンボジアでの
井戸掘りの様子

戦争遺跡の案内

6

やかみ しんや
八上真也
(大阪府守口市)

八上真也氏(大阪府庁福祉部在職中)は、大阪府立大学在学中に創設した「KADOMA中学生勉強会」の代表として、「子どもの貧困」状況にある生徒に、今後のロールモデルになる大学生と学ぶ無償の機会を提供するボランティア活動の先進モデルを創り出してきました。企画から運営まで全て大学生主導で行い、経済的理由等で学習塾に通えない子供たちの学習を支援すると共に、兄姉のような大学生たちと楽しく語らい勉強する「居場所」を創っています。また、多くの大学生と身近に出会うことで自身の将来の選択肢や多様な価値観に触れることもできます。さらに、教員や福祉行政職等をめざす大学生にとっても、自らのキャリア形成となっています。生まれ育った門真市の行政や団体・市民から評価され、各種助成金による運営を実現しています。地域密着の地味な取組ですが、他の大学等への波及も生まれており、「誰一人取り残さない」未来社会づくりに貢献する活動と言えます。



八上真也 氏



勉強会の様子



クリスマス会の様子

7

ラバーズ
Lovers
 ～難病患者・家族を支える会～
 (熊本県熊本市)

医療系大学の学生ボランティアとして、難病や障害を有する方々（小児を含む）及びその家族に対して、当事者会が主催する旅行に同行し身体介助を行うほか、クリスマス会などの季節イベントの運営や楽器演奏、また会が発行する機関誌の制作や発送の補助など、多岐にわたるサポートを14年にわたり継続的に行って来ました。その他、市内で開催される音楽イベント（オハイエ熊本）や障害者スポーツイベント、医療講演会の会場設営を含めたボランティアも継続的に行って来ました。いずれも自発的、継続的な活動であり、活動を通じて人とのつながりを大切にし、自らの意見を持ち、人として成長を続けることも目的としています。地域からの信頼も厚く、特に難病団体の支援に関しては地域の紐帯の一端を担う活動を行っています。



Loversさんの皆さん



県外の難病児との
 リモート協奏
 (2012年)



コンサートポスター